

学校名 (生徒数)	守山市立明富中学校 (489人)
--------------	---------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：守山市水保町 3045 番地 1

電話番号：077-585-7262

## 【研究の目的、研究内容】

### (1) 全国学力・学習状況調査の結果から見た課題

数学では、数学A・Bともに計算をして答えを出す問題の正答率は比較的高い。また、図形の性質などを問われる問題の正答率は高く、図形分野の学習内容の定着具合は全体的に良いと思われる。しかし、関数分野にやや課題があり、グラフや表を読み取る問題を苦手とする生徒が多い傾向が見られる。また、自分で根拠を考えるような問題の正答率は低い傾向が見られる。

課題克服に向けて、授業で、数学的な見方・考え方を伸ばしていく工夫が必要である。また、粘り強く問題に取り組み解答するよう指導し、難しいと感じる問題に対しても頑張る挑戦しようとする意識を高めたい。その他、小学校と連携し、家庭や地域と協力していくことで生徒の学力向上に向けての取組内容を工夫し、実践していきたい。

### (2) 課題解決に向けた改善策

本校では「互いに高め合い、心豊かにたくましく生きる生徒が育つ集団づくり」を研究のテーマとし、全校体制で取り組んでいる。共感的な人間関係という土壌づくりが、自浄能力のある集団を形成していき、自ら学ぶのみならず、集団としても学ぶ意欲を高め、資質や能力が育成されると考える。集団生活を充実させるためにはどのようにすれば良いのか、おのおのが考えるために話し合い活動を取り入れるなど工夫していく。また、授業において学習した知識や技能を課題解決のために、どのように「活用」するか考える機会を増やす。どの知識を使うか、どの技能を使うかを考え、他者の意見を取り入れながら課題解決の機会を増やすなど、言語活動を充実させる。その中で、自分の考えを分かりやすく説明する力を培い、学習した内容を活用する力を伸ばしていく。

### (3) 研究体制

- ・研究推進委員会により研究テーマを決定し、全校体制で取り組みを行う。
- ・特別活動部会を中心とし、自浄能力のある集団づくりに向けての研究を推進する。
- ・教科指導部会を中心とし、授業の中で習得した知識・技能をもとに展開する「活用型」授業の実践的研究を推進する。



### (4) 1年間の主な取組の経過

- ・4月15日（水）校内研究推進委員会の設置と研究の方向性の検討
- ・5月1日（金）第1回学力向上アプローチ事業推進協議会
- ・5月1日（金）～5月12日（火）全国学力・学習状況調査の自校採点
- ・5月29日（金）第1回学力向上アプローチ事業調査部会
- ・6月1日（月）校内研究推進委員会にて、研究の方向性を決定

- ・ 6月26日（金）第2回学力向上アプローチ事業調査部会
- ・ 7月30日（木）集団づくり研修会、特別活動アンケートの結果の考察
- ・ 7月31日（金）第3回学力向上アプローチ事業調査部会  
明富中学校区学力向上夏季合同研修会
- ・ 8月19日（水）明富中学校学力向上研修会
- ・ 10月20日（火）第4回学力向上アプローチ事業調査部会
- ・ 6月中旬～2月上旬 全教科の公開授業実施
- ・ 1月18日（月）～1月22日（金）「平面図形」評価問題の実施と自校採点
- ・ 2月5日（金）第5回学力向上アプローチ事業調査部会
- ・ 2月12日（金）第2回学力向上アプローチ事業推進協議会
- ・ 2月17日（火）明富中学校研究紀要のまとめ（予定）

#### （5）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

##### ①ペア学習やグループ学習を取り入れた言語活動の充実

授業において、話し合い活動を取り入れることで、互いに学び合ったり、他者の意見を交流したりする機会を増やし、多角的な視点で問題解決する力や自分の考えを表現する力を伸ばす工夫を行った。学習内容の確認はペア活動を取り入れ、多くの考え方や意見を出す課題においてはグループ活動を取り入れた。また、全教科で公開授業を実施し、教科によっては、ホワイトボードをグループ活動に取り入れたり、ICTを活用したりする工夫を行った。

##### ②学習内容・思考過程の分かるノートづくり

コーネル式ノートを参考に、ノートを分割し、見開き2ページに「板書」、「気づき」、「振り返り」、「本時のまとめ」の4つのスペースを確保し、1時間の授業で見開き2ページを使用した。生徒が思考過程や重要項目など、振り返りやすく、復習しやすいノートづくりを心がけた。

##### ③授業での振り返り等の工夫

授業の最後に振り返りを書く時間を確保し、1時間の授業の中で、何が重要で、何を理解したのか、また、理解できていない内容を把握することで、その日の学習内容をフィードバックする機会を設けた。また、昨年度より本時のめあてやまとめのプレートを各教室に常備し、どの教科でも活用することで、生徒が授業のめあてとまとめを意識するように心がけた。

### 【研究成果と課題】

#### （1）研究成果

授業に言語活動を取り入れたことで、生徒が主体的に自分の意見を伝えたり、教え合ったりする場面が見られた。生徒からは「自分の考えとは違う意見や問題の解き方を知ることができた」や「ペアの意見を参考に違う考え方で問題に取り組めた」などの意見が出た。1時間の授業内容を見開き2ページのノートにまとめたことで、復習しやすいノートづくりを行うことができた。授業で思ったことや大事なこと、また、他人の意見を気づきのスペースにまとめたり、分からない問題を解決する際に、ノートを使い、既習内容を、振り返ったりするなど、生徒にノートの使い方を意識させることができた。

#### （2）課題等

毎時間、授業に話し合い活動やグループ活動を取り入れることは困難であるため、言語活動を取り入れる際の、学習内容の精選やペア活動、グループ活動等の工夫を行う必要がある。また、ICTを効果的に活用するための研修や教室環境づくりを行うことで、さらにより良い授業の展開を行っていく。